

教育研究等活動業績

山梨英和大学

フリガナ 氏名	性別	生年(西暦)	職名	所属
イノウエ セイゴウ 井上 征剛	男	1974年	教授	人間文化学部人間文化学科
取得学位称号	学術(博士)	専門分野	音楽史・音楽学、児童文学、西洋文化論	
学歴	1999年	3月	東京大学教養学部教養学科第一(比較日本文化論分科)卒業	
	2002年	3月	東京大学大学院総合文化研究科超域文化科学専攻修士課程(比較文学・比較文化)修了	
	2004年	3月	一橋大学大学院言語社会研究科言語社会専攻修士課程修了	
	2006年	9月	ドイツ・ライプツィヒ大学留学(2009年3月まで)	
	2012年	3月	一橋大学大学院言語社会研究科言語社会専攻博士課程修了	
実務経歴	2012年	4月	山梨英和大学非常勤講師(ドイツ語、音楽の表現:~2014年3月)	
	2012年	4月	一橋大学大学院言語社会研究科博士研究員(~2014年3月)	
	2013年	4月	一橋大学非常勤講師(ドイツ語:~2015年3月)	
	2014年	4月	山梨英和大学人間文化学部人間文化学科准教授(~2019年3月)	
	2015年	4月	山梨英和高校非常勤講師(ドイツ語:~2018年3月)	
	2018年	4月	日本女子大学大学院非常勤講師(家政学研究科児童学専攻、特別講義Ⅲ:~同年9月)	
	2019年	4月	山梨英和大学人間文化学部人間文化学科教授(現在に至る)	
	2019年	9月	専修大学兼任講師(文学部日本文学科、児童文学研究:~2020年3月)	
2021年	9月	国際基督教大学非常勤講師(教養学部、世界の文学Ⅰ:~2021年11月)		
受賞歴	2017年	11月	日本児童文学学会創立55周年記念論文佳作(内容については「研究実績」の項を参照のこと)	
	2019年	7月	山梨英和大学ベストエデュケーター賞	
所属学会	2004年	4月	日本児童文学学会会員(2017年11月より理事、2019年11月より事務局長)	
	2012年	8月	日本音楽学会会員	
	2013年	9月	日本イギリス児童文学学会会員(2017年4月より理事)	
	2014年	10月	日本児童文学者協会会員	
特免資格等	2005年	2月	ドイツ語中級(Zentrale Mittelstufenprüfung=ZMP)	
	2007年	7月	大学入学のためのドイツ語(Deutsche Sprachprüfung für den Hochschulzugang = DSH)	
	2000年	2月	高等学校教諭1種免許(地理・歴史)	
e-mail	sei-inoue[atmark]yamanashi-eiwa.ac.jp			

目 次

○教育業績

教育理念、方針、方法

教育能力

教育方法実践例

作成した教科書、教材等

教育方法や実践に関する発表、講演等

担当授業科目

代表的なシラバス

教育改善活動

教育能力に対する評価

○研究業績

研究の特徴

研究経歴

研究実績

著書

学術論文

その他の研究活動

競争的資金採択課題

学会等発表、役員参加

共同研究・受託研究の実績

大学院生指導

研究能力に対する評価

○サービス活動業績

学内委員会・作業部会等活動実績

アドバイザー活動実績

後進育成活動実績

社会貢献活動

○専門的活動(教育業績、研究業績、サービス活動業績)の統合による成果と目標

専門的成果

専門的目標

○添付資料

略

教育業績

教育理念、方針、方法	<p>大学の教育では、学生が他者や社会・文化事象に対して幅広い興味を持つための、また彼らがそのような事柄に関する情報を集め、把握することを通して、自分自身の考えについて再認識し、その考えを自ら発信する方法を学ぶための手助けをすることが必要と考えている。そのために、語学、文化、学問の基礎のいずれにおいても、専門的な知識への扉を開く基礎とともに、それらの分野の根幹となる社会事象について十分な情報伝達を行い、専門的な知識が自分たちの身の回りのできごとや状況と結びつき得ると認識してもらうこと、さらにそのような認識を手がかりに、自分たちの目の前にあるものごとを自分なりにとらえ、消化し、その際に感じたこと、考えたことを自分の言葉として発信する経験を積んでもらうことに重点を起きたいと考えている。したがって、専門的知識や論理的思考、さまざまなレベルでの好奇心に加え、他人に理解しやすい文章を書く力の育成も重視したい。</p> <p>また、音楽と児童文学を中心とした文化事象に数多く触れてもらい、興味を喚起することも目指す。その際、いわゆる「マイナーなもの」に注目する価値についても気づいてもらうよう、知られていないがすぐれた作品の紹介に力を入れることを重視している。</p> <p>語学教育にあたっては、「辞書を引いて内容をしっかり考えた上で把握する」ことが非常に重要と認識している。したがって、時間をかけて読む価値のある文章を、単語の意味や文法に留意しながらいねいに読んでいき、次第に長い文章を速く読めるようになる、というのが理想。ドイツ語教育では、留学時の経験に基づき、「外国で外国の言葉に囲まれて生きる感覚」を伝えることも重視している。</p>
教育能力	<p>(1)教育方法実践例 「音楽史・音楽学」の場合：①テーマとする作品について、作曲家の活動史や作曲当時の社会状況を念頭に置いた上で、作品分析を行う。 ②同じジャンルや類似した内容をもつ作品を紹介し、共通点やそれぞれの作品だけに見られる特徴を把握する。／なお、CDやDVDでの作品紹介やピアノ演奏を交えた解説によって、音楽経験の浅い受講者でも、内容を自分なりに興味をもって受けとめられるように心がけている。</p> <p>(2)作成した教科書、教材等 特になし(多くの科目では、毎回必要な情報を掲載したプリントを作成・配布している)。</p> <p>(3)教育方法や実践に関する発表、講演等 2016年2月4日：一橋大学キャリア支援室(大学院生担当)2015年度第5回アカデミックキャリア講習会「大学で教えるということ—地方私立大学の教育現場から—」で、大学院修了後2～3年の教員による授業づくりについての講演を行う。「サービス活動業績」の「社会貢献活動」の項目を参照のこと。 2017年3月26日：音楽理論研究会第20回東京例会で発表。「大学における教養教育と音楽学—音楽を専門としない学生向けの授業で音楽理論をどのように活用するか—」(国立市、国立音楽大学AIスタジオ) 2021年3月：山梨英和大学FD/SD研修会「遠隔授業における授業工夫の実際」の講師を担当。</p>
担当授業科目	<p>2022年度： 音楽史・音楽学(前期)、児童文学講読(後期)、比較文化・思想論(前期)、子どもと文化(第3Q:共同)、地域研究・実践論(後期)、舞台芸術論(前期)、世界の文化(後期:共同)、英語1aJ(前期)、英語1bC(前期)、英語1cI(後期)、ドイツ語1(前期)、ドイツ語2(後期)、ヨーロッパの社会と文化A(前期)、専門ゼミナール(前期・後期)、卒業プロジェクト研究(第1Q～第4Q)、基礎ゼミナール(前期・後期)</p>
代表的シラバス	<p>以下、音楽史・音楽学(2023年度前期)のシラバスから抜粋。</p> <p>概要 クラシック音楽のジャンルのひとつである「歌曲」について、音楽作品のしくみや、歌詞をどのように音楽で描くかに重点を置いて概観します。</p> <p>到達目標 (1)クラシックの歌曲作品について、歌詞の内容をどのように音楽で描くかを読み取ることを通して、自分なりに面白さを発見して聴くこと。 (2)日本の歌曲作品を理解することを通して、クラシック音楽という欧米由来のジャンルにおいて、いかに「日本らしさ」を追究することが可能かを考えられるようになること。 (3)(1)を応用して、クラシック以外の「歌」をより深く楽しむ手がかりを得ること。</p>

<p>代表的シラバス</p>	<p>授業計画 (1)音楽の仕組みや基本的な技法を手掛かりに、歌曲の表現について学ぶ。 (2)物語や感情など、歌曲におけるテーマに沿った音楽描写について学ぶ。 (3)いわゆる「ポピュラー音楽」と近い感触の作品について考察し、「クラシック音楽」と「ポピュラー音楽」の境界について認識を深める。 (4)日本歌曲の発達史をたどり、日本語の歌詞における歌曲にみられる工夫について学ぶ。 (5)連作歌曲や編曲、オーケストラ伴奏歌曲など歌曲のさまざまなパターンについて検討する。</p> <p>成績評価 平常点(積極的な授業参加)20%、授業内課題(毎回)20%、レポート60%。レポートは、問いに適切に答えられているか、日本語の答案として適切な形式を踏まえているかを基本に、授業内容の理解度、また作品・歌曲・声楽作品についての自分自身の考えを、明確な根拠をふまえて適切に説明できているかどうかを採点基準です。</p> <p>教科書・参考書 必要に応じてプリントを配布します。できれば、店や図書館などでCDを入手して、自主的にクラシック音楽の歌曲に触れてみましょう。なお、音楽のしくみについて知りたいという人は、以下の本が参考になります(少々専門的です)。 ・石桁真礼生、末吉保雄、丸田昭三、飯田隆、金光威和雄、飯沼信義『新装版 楽典理論と実習』音楽之友社、1950円(+税)、ISBN: 9784276100 ・島岡譲『和声のしくみ・楽曲のしくみ 4声体・キーボード・楽式・作曲を総合的に学ぶために』音楽之友社、2800円(+税)、ISBN: 4276102197</p>
<p>教育改善活動</p>	<p>(1)一橋大学・大学教育研究開発センター研究補助員として、レポート作成の指導と指導法に関する研究などを行う(2010年11月～2011年2月)。(2)山梨英和大学学内WGで、新カリキュラム構築に取り組む(2015年2月～2016年3月)。2016年度には新たに発足した「グローバル・スタディーズ領域」の連絡係を、2017年度には同領域長を務める。(3)2015年度に英語・英語圏文化コースのコーディネーターを務めたことをきっかけに、同コースの専門教育制度の変更(卒業研究の最終発表会を新たに開催する、など)及び、英語基礎教育体制の整備を行った。(4)2018年6月より、英語教育改革検討委員会メンバー(2021年3月まで)。</p>
<p>教育能力に対する評価</p>	<p>(1)学生による授業評価 全般的に高い評価を頂いている。個別の記述では、「様々な種類の絵本を多角的に読むことが出来た」(子どもと文化:2015年度)、「先生方のディスカッションでは、児童文学と心理臨床の融合点とそれぞれの相互作用を捉えることができました」(子どもと文化:2020年度)、「フランダースの犬に対する見方が大きく変わると同時に、他の作品でも同じような展開はないだろうかと探すきっかけとなり、様々な作品を深く読むようになった。また、自分の考えを伝えれば伝えるほどそれに対するものが返ってくるので、とても積極的に授業を受けられ、楽しかった」(様々な作品を関連づけながら1つのテーマを論じ、思考力を養うというのが非常に魅力的だった)(比較文化・思想論:2016年度)、「ただドイツ語を学ぶだけでなく、ドイツという国の文化・魅力についても知ることができるのが良かった」(ドイツ語2:2022年度)、「オーケストラ音楽の印象が変わった。堅苦しいというイメージがあったが授業を受け、面白いし、もっと聴いてみようという意識が変わりました」(音楽史・音楽学:2016年度)、「学生の発言に価値を見出そうとしてくれるため気軽に発言できた」(児童文学の奥深さを知ることができた)(児童文学講読:2015年度)、「自分の知らない分野などにもスポットを当ててくださったので新しい発見がとて多く毎回楽しみにしていた授業でした」(世界の文化:2019年度)、「英語に関して苦手意識をもっていたが、すこしずつ楽しんで受けられるようになった」(英語:2015年度)、「自分だけでなく、一緒に授業を履修している人それぞれが、好きなことや興味のあることについて深く知り研究しようとしている姿勢に刺激を受け自分も学びを深めていこうと感じられたから。また、芸術や文化事象、文学作品など様々なことを学ぶことができ自身の知識として養うことができ充実した授業だった。」(卒業プロジェクト研究:2022年度)などのコメントがあった。他大学の非常勤講師としては、「学問的におもしろかった」というコメントも得ている。なお、2019年3月の学生企画によるオープンキャンパスでは、学生から依頼を受けて模擬授業を行っている(サービス活動業績の項参照)。</p> <p>(2)同僚教員等による授業評価 2019年にベストエデュケーター賞を与えられているが、これは2018年度の学生授業アンケートに基づいて、本学のFD・SD委員会での検討を経て決定されたものである。 一橋大学では、ティーチング・アシスタントを務めた後、その際の仕事から授業を行う能力があるという評価を得て、非常勤講師や臨時の講師を務めることができた、という経緯がある。</p>

研究業績

研究の特徴	<p>音楽史・音楽学研究では、作品の詳細な分析(作曲のための基礎知識による)と、その作品が生まれた社会的脈絡の考察を合わせて行うことで、多面的な作品理解を行っている。このような多面的なとらえ方を通して、作曲家にとって、また現代において音楽作品を受容する私たちにとって、その作品がどのような意味を持ち得るのかを明らかにすることを目指している。</p> <p>児童文学研究では、物語で描かれるできごとを詳細に分析し、主に現代の読者にとって、その作品を読むということがどのような意味を持ち得るのかを常に視野に置いて論じることを重視している。社会に対して、また児童文学を軽視する少なからぬ論者に対峙するか、ということも重要なテーマである。</p> <p>音楽をテーマとする児童文学作品の研究など、複数のジャンルにまたがった研究も重点的に行っている。音楽・児童文学作品についてその面白さを具体的に伝えること、また(主に社会に対して)批判精神を持ち続けることを強く意識している。</p>
研究経歴	<p>2006年 2009年まで、ドイツのライプツィヒに留学。音楽史に関する調査・研究のほか、ドイツのオペラ劇場や児童文化(音楽、図書館、演劇など)の取材を行う。</p> <p>2011年 一橋大学・組織的な若手研究者海外派遣プログラム(独立行政法人日本学術振興会「組織的な若手研究者海外派遣プログラム」採択事業)により、ライプツィヒ大学で調査研究を行う(劇場などの取材も行った)。(2013年まで、2回・計5か月。)</p>
研究実績	<p>(1) 著書 まだない(博士論文を出版したいと考えてはいる)。</p> <p>(2) 学術論文 博士論文:『アレクサンダー・ツェムリンスキーの《夢見るゲルゲ》——現実ともうひとつの世界をめぐる歌劇』(2011年提出、2012年合格) 入賞/学術雑誌掲載論文:「前衛音楽としての「カナリア・オペラ」と英国社会——ロフティング『ドリトル先生のキャラバン』の音楽史的検証から見えてくるもの——」(『児童文学研究 第50号』、「受賞歴」該当論文) 依頼論文1:「高畑勲と「大衆と共にある芸術」『太陽の王子 ホルスの大冒険』と『母をたずねて三千里』の音楽」(米村みゆき・須川亜紀子(編)『ジブリ・アニメーションの文化学 高畑勲・宮崎駿の表現を探る』(七月社、2022年12月)) 依頼論文2(共著):甲斐聖子・井上征剛「目標17 パートナーシップで目標を達成しよう」(中川素子・浅野由子(編)『絵本で読みとくSDGs』(水声社、2022年)) 依頼論文3:「日本のファンタジーにおける猫—くろぐろと広がる死の世界と、「もうひとつの価値観」への案内役」(『日本児童文学 2021年11・12月号』) 依頼論文4:「放送劇音楽としての『母をたずねて三千里』付随音楽」(『高畑勲をよむ 文学とアニメーションの過去・現在・未来』(三弥井書店、2020年)) 依頼論文5:「作者のまなざしと翻訳の役割——ヴァージニア・リー・バートン『せいめいのれきし』改訂版をめぐる——」(今田由香・大島丈志編『絵本ものがたりFIND 見つける・つむぐ・変化させる』朝倉書店、2016) 依頼論文6:「音楽を描く児童文学、その諸相」(『日本児童文学 2011年11・12月号』) 研究書(事典)での項目執筆:「総説 作曲/投稿作品とその作曲家たち/作曲の手法」(『赤い鳥事典』(柏書房、2018年)) 学術雑誌投稿掲載論文1:「オペラに描かれた子ども像——フンパーディンクのオペラ『ヘンゼルとグレーテル』の場合——」(『一橋論叢』2004年9月号) 学術雑誌投稿掲載論文2:「ベンジャミン・ブリテンのオペラ『ねじの回転』にみる、子ども観への問題提起」(『児童文学研究 第37号』(2004年)) 学術雑誌投稿掲載論文3:「ベンジャミン・ブリテンのオペラ『小さな煙突掃除』——子どもオペラの可能性と問題点」(『一橋論叢』2006年3月号) 海外の研究書籍(論文集)掲載論文((3)を参照):“Wenn Kinder eine Grenze zwischen zwei Welten überqueren: Engelbert Humperdincks „Hänsel und Gretel“ als „Fantasy-Oper””(子どもたちがふたつの世界の境界を渡るとき——「ファンタジー・オペラ」としてのエンゲルベルト・フンパーディンク『ヘンゼルとグレーテル』)In: Brinker-von der Heyde, Claudia / Ehrhardt, Holger / Ewers, Hans-Heino / Inder, Annkatrin (Hrsg.) Märchen, Mythen und Moderne. 200 Jahre Kinder- und Hausmärchen der Brüder Grimm. Teil 1 und 2. Frankfurt am Main u. a.: 2015.</p> <p>(3) その他の研究活動(国際会議発表、学術誌編集、学術論文査読等) 新国立劇場オペラ公演「フィレンツェの悲劇/ジャンニ・スキッキ」パンフレットの解説「ツェムリンスキーとその時代」(2019年4月) 共著:佐藤宗子・久米依子(編)『現代日本子ども読書史図鑑』(2023年1月、椋風舎) 共著:『児童文学・21世紀を読む』(2018年8月、児童文学評論研究会編集・発行) 学会誌書評:「周東美材著『童謡の近代——メディアの変容と子ども文化』」(『児童文学研究 第49号』(2017年)) 評論記事:「「排外主義の時代」の児童文学」(『日本児童文学 2019年5・6月号』)※2018年の海外児童文学作品翻訳についての総括</p>

<p>研究実績</p>	<p>評論記事:「児童文学の「活性化」と評論・研究の戦略」(『日本児童文学 2017年5・6月号』)※2016年の児童文学に関連する評論・研究の総括</p> <p>評論記事:「ここに僕らは居合わせている」(『日本児童文学 2013年5・6月号』)※2012年の海外児童文学作品翻訳についての総括</p> <p>紀要掲載レポート:キリスト教と人間文化学 —2018年メイプルカレッジ連続講演報告—「Ⅱ. チェコ紀行:ヤン・フスの宗教改革とチェコ音楽のつながりをたどる」(『山梨英和大学紀要 第17号』2019年3月)</p> <p>紀要掲載レポート:宗教改革500年の旅 —わたしたちは何処からきて、何処へ向かっているのか?— 「県民コミュニティーカレッジ2017」レポート「第2回 東ドイツ紀行—宗教改革と音楽・美術の旅—」(『山梨英和大学紀要 第16号』2018年3月)</p> <p>日本音楽学会東日本支部第41回定例会傍聴記執筆(東日本支部通信第41号(Web媒体、2016年11月8日更新)掲載)</p> <p>国際児童文学学会(IRSCCL)で5回発表(京都(2007)、フランクフルト(2009)、マーストリヒト(2013)、ウスター(2015)、ストックホルム(2019))。カッセルでの、グリム・メルヒェンをテーマとした学会(2012)でも発表を行った。ストックホルム以外では、クラシック音楽を扱う発表としてはほぼ唯一のものだった。カッセルでの研究発表は、その後ドイツ語論文として学会論文集に提出・採用収録された((2)を参照のこと)。</p>
<p>競争的資金採択課題</p>	<p>特になし</p>
<p>学会等発表・役員参加</p>	<p>1999年 6月 日本児童文学学会の東京例会で、「19世紀後半の西洋児童文学にみる芸術への関心」というテーマで研究発表を行う。</p> <p>2004年 11月 日本児童文学学会第43回研究大会(東京学芸大学)で、ベンジャミン・ブリテンのオペラ《小さな煙突掃除》について発表を行う(「オペラと児童文学の接点——ブリテンのオペラ『小さな煙突掃除』をめぐって——」)。子どもをテーマとするオペラ作品についての発表は、このときが初めて。</p> <p>2005年 10月 日本児童文学学会第44回研究大会(同志社大学)で、研究発表「1930年代の「学校オペラ」——子どもの主体性をめぐって」を行う。</p> <p>2007年 8月 国際児童文学学会第18回研究大会(京都)で研究発表(英語)。“How can music depict the relationship between the power of the society and children? - in the case of Benjamin Britten” (音楽はどのようにして社会の力と子どもの関係を描くことができるか——ベンジャミン・ブリテンの場合)</p> <p>2009年 8月 国際児童文学学会第19回研究大会(ドイツ、フランクフルト)で、ドイツのオペラ上演に見る、子どもについての新しい発想をテーマに研究発表を行う(ドイツ語)。“Kinder im Musiktheater: Neue Gedanken über Kinder bei deutschen Opernaufführungen” (オペラ劇場の子どもたち——ドイツのオペラ上演に見る、子どもについての新しい発想)</p> <p>2009年 12月 日本児童文学学会の東京例会で、研究発表を行う。「ドイツの子ども向けオペラと演劇の現在 ——旧東独圏の劇場の活動を中心に——」</p> <p>2012年 12月 ドイツのカッセルで行われた、グリム兄弟メルヒェン集200周年記念学会(BRÜDER-GRIMM-KONGRESS 2012 “Märchen, Mythen und Moderne: 200 Jahre Kinder- und Hausmärchen der Brüder Grimm”)で、フンパーディンクのオペラ《ヘンゼルとグレーテル》について発表。“Wenn Kinder eine Grenze zwischen zwei Welten überqueren: Engelbert Humperdincks „Hänsel und Gretel“ als „Fantasy-Oper””(子どもたちがふたつの世界の境界を渡るとき——「ファンタジー・オペラ」としてのエンゲルベルト・フンパーディンク《ヘンゼルとグレーテル》)</p> <p>2013年 8月 国際児童文学学会第21回研究大会(オランダ、マーストリヒト)で、フリードのモノ・オペラ《アンネの日記》について発表を行う(英語)。“A Mono-opera “The Diary of Anne Frank”— How does “Modern Music” depict a girl in the Nazi Time?”(モノ・オペラ《アンネの日記》——ナチス時代の少女を描く「現代音楽」)</p> <p>2013年 11月 日本児童文学学会第52回研究大会(広島経済大学)で研究発表。「ベンジャミン・ブリテン《子どもの十字軍》にみる「戦争児童音楽」の可能性——子どもの音楽演奏によって、過去と現在を結びつけるということ」</p> <p>2013年 11月 日本イギリス児童文学会東日本支部秋の例会(川村学園女子大学)で研究発表。「ベンジャミン・ブリテンが開いた、音楽で子どもを描く新たな可能性——1960年代の作品を中心に」</p> <p>2013年 11月 日本児童文学学会運営委員(～2017年11月)</p>

学会等発表・役員参加	2014年	10月	日本児童文学者協会会員(研究部部員)(現在に至る)
	2014年	11月	日本音楽学会第65回研究大会(九州大学)で研究発表。「ツェムリンスキー《人魚姫・管弦楽のための幻想曲》——「死の交響曲」から生きることの痛みを描く音楽への展開」
	2015年	8月	国際児童文学学会第22回研究大会(イギリス、ウスター)で、ブリテンの連作歌曲集『ウィリアム・ブレイクの歌と箴言』について発表を行う(英語)。““Why do you always need ‘innocent’ children?” – Benjamin Britten’s method to depict “childhood” in his song cycle “Songs and Proverbs of William Blake””
	2016年	11月	日本イギリス児童文学学会第46回研究大会(中京大学)で研究発表。「前衛音楽としてのカナリア・オペラ——ロフティング『ドリトル先生のキャラバン』の音楽史的検証——」
	2017年	3月	音楽理論研究会第20回東京例会(国立音楽大学AIスタジオ(国立市))で本学での教育活動に基づく研究発表。「大学における教養教育と音楽学——音楽を専門としない学生向けの授業で音楽理論をどのように活用するか——」
	2017年	4月	日本イギリス児童文学学会理事(現在に至る)
	2017年	11月	日本児童文学学会理事(現在に至る)
	2018年	3月	人魚プロジェクト(科研費研究プロジェクト)第30回研究会(東京理科大学神楽坂キャンパス)で発表。「放送劇音楽としての『母をたずねて三千里』付随音楽」
	2019年	8月	国際児童文学学会第24回研究大会(スウェーデン、ストックホルム)で、ブリテン『子どもの十字軍』を中心に、音楽的素材としての子どもの声の用い方についての研究発表を行う(英語)。“Children’s Voices as Musical Materials: In Case of Benjamin Britten’s “Children’s Crusade””
	2019年	11月	日本児童文学学会事務局長(現在に至る)
	2019年	11月	日本児童文学学会・日本イギリス児童文学学会の研究大会でセクション司会を担当(この時が最初)。□
	2019年	11月	日本児童文学学会の研究大会でセクション司会を担当。
2021年	10月	英語圏児童文学学会研究大会で、創立50周年記念音楽会の企画責任・解説を担当。	
受託共同研究の実績	年	月	
	年	月	特になし
	年	月	
	年	月	
	年	月	
大学院生指導	特になし(出身大学院では、ゼミで他の院生への助言を行ってきた)		
対する研究能力に	一橋大学大学院言語社会研究科では、大規模なオペラについて、音楽と台本の両面から緻密な分析を行い、さらに豊富な文献資料を細部まで調査分析した上で駆使し、あまり知られていない作品に新たな価値を見出した点が、高く評価された。さらに、他のジャンルや、有名でないものも含めた他の音楽作品との比較を徹底して行うことで、研究対象としている作品の新たな面に光をあてた点が、筆者の研究の特色という点も含めて高い評価を受けている。音楽産業や社会に対する問題意識や、文章の分かりやすさもまた、評価の対象となっている。		

サービス活動業績

学内委員会・作業部会等活動実績	2014年	8月 山梨英和大学オープンキャンパスで模擬授業(「作曲家の仕事——音楽の喜怒哀楽——」)を行う。
	2015年	2月 新カリキュラム検討WGメンバーを務める(～2016年3月)。
	2015年	4月 英語・英語圏文化コースコーディネーターを務める(～2016年3月)。
	2015年	4月 学生サービス部運営委員会委員(～2016年3月)。
	2015年	6月 山梨英和大学オープンキャンパスで模擬授業(「絵本を深読み!～パートン『ちいさいおうち』」)を行う。
	2015年	10月 学内サークル「RingerRinger」顧問(ハンドベルサークル、現在に至る)。
	2016年	4月 グローバル・スタディーズ領域連絡者を務める(～2017年4月)。
	2017年	4月 グローバル・スタディーズ領域長を務める(～2018年3月)。
	2017年	4月 学生サービス部運営委員会委員(国際交流主任、～2018年3月)。
	2017年	4月 教務オリエンテーション担当。
	2017年	6月 山梨英和大学オープンキャンパスで模擬授業(「世界への扉を開く～「ロボット」の生まれた国～」)を行う。
	2018年	4月 入試・広報部担当長を務める(現在に至る:関連する兼務あり)。
	2018年	4月 教務オリエンテーション担当。
	2018年	6月 オープンキャンパスで大学総合案内を担当(～9月)。
	2018年	7月 山梨英和大学オープンキャンパスで模擬授業(「絵本を深読み!～パートン『ちいさいおうち』」)を行う(2019年、2021年、2022年にも担当)。
	2019年	2月 山梨英和大学入学前教育(第2回)で講演「大学での学びについて」を担当。
	2019年	3月 山梨英和大学オープンキャンパス(学生企画)で模擬授業「クリティカル・シンキング入門」を行う。
	2019年	4月 山梨英和大学吹奏楽部顧問(現在に至る)。
	2019年	6月 オープンキャンパスで大学総合案内を担当(～9月、以降毎年)。
	2020年	4月 2020年度基礎ゼミナールのチーフを担当する(～2021年3月)。
	2020年	6月 オープンキャンパス(遠隔、「バーチャル・オープンキャンパス」)で大学総合案内を担当。
	2020年	7月 ヴァーチャル・オープンキャンパス模擬授業『絵本深読み講座』を担当。
	2020年	10月 高校生談話室「図書館を駆使して、本を読む楽しみを深めよう」を担当。
	2020年	3月 FD/SD研修会で講師を担当(「教育能力」(3)の項を参照)。
	2020年	3月 入学前教育の講師(一部)を担当。
	2020年	3月 メイプルカレッジ担当長(副カレッジ長、現在に至る。関連する兼務あり)。
	2021年	6月 山梨県立青洲高校で進路選択についてのディスカッションのパネラー(大学・文系担当)を務める。
	2022年	4月 副学長を担当(現在に至る。関連する兼務あり)。
	2022年	6月 山梨県立青洲高校で進路選択についてのディスカッションのパネラー(大学・文系担当)を務める。
	2023年	2月 甲府市立甲府商業の進路説明会で、山梨英和大学への進学についての説明を担当する。
アドバイザー活動実績	2014年度より、基礎ゼミ担当学生および担当留学生を中心に、2018年度より基礎ゼミ担当学生および専門ゼミ担当学生を中心に、履修・学習・生活などの指導を行っている。	

後進育成活動実績	特になし(一橋大学大学院では、ゼミ生や留学生への助言に加えて、修士論文発表会などの場にもできるかぎり参加し、他のゼミの学生にも、必要に応じて助言を行っている)。現在は、関連分野の研究等について、求められて助言を行うことがある。また、2018年度の日本女子大大学院での非常勤講師では、児童文学の若手研究者育成に関わっている。
社会貢献活動	(1)講演会
	2008年 6月 ドイツ・ライプツヒの「国際学生週間」で、日本文化(日本歌曲)についての講演を行う(ドイツ語)。西洋文化を受け入れ、自分なりに消化することによって「自分たちの新たな伝統」を作り上げてきた経緯をドイツの人々に伝え、「なぜ日本人は西洋音楽を必要とするのか」という典型的な問いに対する答えとした。
	2015年 11月 清泉女子大学英語英文学科の中の授業に招聘され、授業内講演(「音楽で子どもを描くということ——ベンジャミン・ブリテンの作品から」)を行う。
	2016年 2月 一橋大学2015年度第5回アカデミックキャリア講習会「大学で教えるということ——地方私立大学の教育現場から——」登壇者(報告・討議)
	(2)出前講座
	2015年 6月 山梨県立笛吹高校で高校進路ガイダンスに参加、山梨英和大学についてのプレゼンテーションを行う。
	2015年 11月 山梨県立甲府西高校で出前講座「絵本の読み方～乗り物絵本～」。
	2016年 3月 山梨県立笛吹高校で出前講座「英語の絵本を読む——物語・社会・そして英語」。
	2016年 11月 山梨県立白根高校で出前講座「英語の絵本を読む——物語・社会・そして英語」。
	2017年 7月 山梨県立韮崎高校で出前講座「作曲家の仕事——音楽の喜怒哀楽——」。
	2018年 3月 山梨県立塩山高校で出前講座「英語の絵本を読む——物語・社会・そして英語」。
	2018年 7月 山梨県立巨摩高校で山梨英和大学についてのガイダンスを行う。
	2018年 11月 山梨県立白根高校で進路説明会模擬講義「絵本を通して、子どもについて考えよう」。
	2019年 3月 山梨県立塩山高校で出前講座「英語の絵本を読む——物語・社会・そして英語」。
	2019年 3月 山梨県立身延高校で出前講座「英語の絵本を読む——物語・社会・そして英語」。
	2019年 3月 山梨県立富士河口湖高校で山梨英和大学についてのガイダンスを行う。
	2019年 4月 山梨県立笛吹高校で出前講座「英語の絵本を読む——物語・社会・そして英語」。
	2019年 12月 山梨県立山梨高校で山梨英和大学についてのガイダンスを行う。
	2019年 12月 私立駿台甲府高校(通信制)で出前講座「物語の読み方」。
	2020年 9月 山梨県立山梨高校で山梨英和大学についてのガイダンスを行う。
	2020年 10月 山梨県立巨摩高校で山梨英和大学についてのガイダンスを行う。
	2021年 3月 山梨県立身延高校で出前講座「物語の読み方」。
	2023年 3月 山梨県立富士河口湖高校の進学説明会で、文学についての模擬講義「文学への招待」を行う。
	(3)公開講座
	2016年 6月 メイプルカレッジ講座「絵本深読み講座」担当(同年11月まで、全5回)。
	2016年 9月 2016県民コミュニティーカレッジ・山梨英和大学公開講座「夏目漱石との新たな出会い——漱石宇宙の多元性に触れる——」第2回「『漱石日記』と1900年のロンドン ～漱石の見たヨーロッパ～」を担当。
	2017年 6月 メイプルカレッジ講座「絵本深読み講座 第2期」担当(同年12月まで、全5回)。
	2017年 10月 県民コミュニティーカレッジ2017・山梨英和大学公開講座『宗教改革500年の旅 —わたしたちは何処からきて、何処へ向かっているのか?—』第2回「東ドイツ紀行—宗教改革と音楽・美術の旅—」
	2018年 6月 メイプルカレッジ講座「絵本深読み講座」担当(同年11月まで、全5回)。
	2018年 9～10月 メイプルカレッジ講座「W・A・モーツァルト『魔笛』の世界 ——音楽と心理の視点から——」を石橋泰氏と共同で担当(全5回)。
2018年 10月 メイプルカレッジ『キリスト教と人間文化学』第2回「チェコ紀行:ヤン・フスの宗教改革とチェコ音楽のつながりをたどる」担当。	
2019年 4月 メイプルカレッジ講座「絵本深読み講座」担当(同年7月まで、全4回)。	
2019年 8～9月 ことぶき勸学院で講座「クラシック音楽の楽しみ方:日本歌曲の歩み」を担当	
2019年 9～12月 メイプルカレッジ講座「グリム童話の楽しみ方 ～オペラ『ヘンゼルとグレーテル』とユング心理学」を石橋泰氏と共同で担当(全4回)。	

社会貢献活動	2019年	10月	メイプルカレッジ講座『キリスト教と人間文化学』「第4回 ハイドン《天地創造》—聖書の物語を描く音楽と、世界の眺め方—」を担当。	
	2020年	9～10月	山梨ことぶき勸学院で講座「クラシック音楽を楽しもう:スメタナの交響詩《モルダウ(ヴルタヴァ)》を聴く」を担当。	
	2020年	9～12月	メイプルカレッジ講座「アンデルセン『人魚姫』の楽しみ方 —心理学・サブカルチャー・音楽—」を石橋泰氏と共同で担当(全5回)。	
	2020年	11～12月	山梨県生涯学習推進センター主催・生涯学習講座「大人のための絵本講座」講師	
	2020年	4～7月	メイプルカレッジ講座「絵本深読み講座」を担当(全4回)。	
	2021年	4～7月	メイプルカレッジ講座「絵本深読み講座」を担当(全4回)。	
	2021年	9月	メイプルカレッジ講座『キリスト教と人間文化学』「第2回 ハンガリーの「大衆音楽」とキリスト教の接点:コダーイの作品から」を担当。	
	2021年	9月～	ことぶき勸学院で講座「クラシック音楽を楽しもう:スメタナの交響詩《モルダウ(ヴルタヴァ)》を聴く」を担当。(～2022年1月)	
	2021年	9月～	甲府こども劇場学習会で、海外の子ども劇場・音楽と文学・児童文学についての学習会講師を担当。(全3回、～11月)	
	2022年	7月～	山梨ことぶき勸学院で講座「クラシック音楽を楽しもう:組曲《惑星》より「木星」を聴く」を担当。(～2023年2月)	
	2022年	4～7月	メイプルカレッジ講座「絵本深読み講座」を担当(全4回)。	
	2022年	9月	メイプルカレッジ『キリスト教と人間文化学』「第2回 東ドイツ紀行—宗教改革と音楽・美術の旅—」を担当。	
	2022年	12月	甲府市立図書館の講座「児童文学の楽しみ方」を担当(全2回)。	
	(4)学外審議会・委員会等			
	2018年	4月	大学コンソーシアムやまなし・高大接続事業委員会委員(現在に至る)。	
	(5)その他			
	2012年	9月	札幌室内歌劇場「子どものための音楽／唱歌の学校」構成協力。	
	2013年	3月	ブラームス《ドイツ・レクイエム》(飯森範親指揮、オーケストラ・アンサンブル金沢、サウンドブリッジ合唱団)の字幕用歌詞日本語訳を作成。	
	2013年	10月	札幌室内歌劇場《タンホイザー》芸術監督補佐。このほか、音楽会企画・補助・作曲・編曲活動多数。	
	2014年	10月	日本児童文学者協会研究部員(～2018年11月)。	
	2015年	1月	「山梨英和コンサートシリーズ」を開始。比較的知られていない作品を含め、クラシック音楽を幅広く、そして深く理解しながら楽しむ演奏会シリーズの企画および運営を行っている。	
	2015年	7月	日本児童文学者協会「がつぴょうけん(合評創作研究会)」で、「詩・掌編」部門の世話人を務める(2016～2018年にも同部門の世話人を務める)。	
	2015年	10月	山梨英和大学ハンドベルサークル“RingerRinger”の顧問(出張演奏の指揮なども行う)。また、同大学吹奏楽部の指揮も行う。	
	2016年	11月	小林沙羅CD「この世でいちばん優しい歌」歌詞対訳(ドイツ語)の監修(日本コロムビア)。	
	2017年	4月	エリーザベト・クールマンのリサイタル(東京・春・音楽祭)の歌詞対訳を一部作成(ケストナー:詩、ライター作曲)。	
	2017年	6月	CD「イタリア・バロックの協奏曲集」(ユニバーサルミュージック)の解説文「イタリアの協奏曲」(ラインハルト・ゲーベル)の翻訳を作成。	
	2017年	8月	CD「テレマン・パリ四重奏曲集」(ソニーミュージックエンターテインメント)の解説文の翻訳を作成。	
	2017年	10月	CD「バッハ・ブランデンブルク協奏曲集」(ソニーミュージックエンターテインメント)の解説文「作品と演奏についてのノート」(ラインハルト・ゲーベル)の翻訳を作成。	
	2017年	11月	日本児童文学者協会研究部主催企画「子どもの本のひみつ」第2回(ナール・ホームサロン(甲府)で開催)で司会を務める。	
	2017年	11月	第8回日本児童文学評論新人賞(日本児童文学者協会主催)審査員。	
	2017年	12月	CD「テレマン・弦楽のための協奏曲集」(タワーレコード/ユニバーサルミュージック)の解説文の翻訳を作成。	
	2018年	5月	FM FUJI『Yes! Morning』のコーナー「TALK『絵本の研究』」に出演。	
	2018年	12月	『児童文学10の冒険』(日本児童文学者協会編、偕成社)に解説「きのうからあしたへ——読者とともに歩む物語」を執筆。	
	2019年	3月	FM FUJI『Yes! Morning』のコーナー「山梨英和大学メイプルカレッジご紹介」に出演。	
	2019年	4月	新国立劇場公演『フィレンツェの悲劇/ジャンニ・スキッキ』に作曲家ツェムリンスキーについての解説を執筆(研究業績の欄を参照のこと)。	
	2019年	5月	東京交響楽団演奏会のパンフレット『Symphony』2019年5月号のプログラム・ノートにブリテン《ヴァイオリン協奏曲 二短調》の楽曲解説を執筆。	
	2019年	11月	第9回日本児童文学評論新人賞(日本児童文学者協会主催)審査員(現在に至る)。	
	2021年	4月	森川成美の小説『はなの街オペラ』(くもん出版)監修・解説。	
	2021年	9月	CD「ルドルフ・ブッフブNDER/ベートーヴェン:ピアノ協奏曲全集」(ユニバーサルミュージック)の解説文の翻訳を担当。	
	2021年	11月	第10回日本児童文学評論新人賞(日本児童文学者協会主催)審査員。	
	2021年	12月	山梨新報「わたしのこの一冊」コーナーに取材記事掲載。	
	2022年	4月	東京・春・音楽祭の公演「歌曲シリーズvol. 28 マルクス・アイヒェ&クリストフ・ベルナー」(ブラームス作曲《ティークの「マゲローネ」によるロマンス》、朗読:奥田瑛二)で朗読部分のドイツ語テキスト翻訳を担当。	
2022年	4月	FM FUJIの番組「ACTUS」内のコーナー「井戸端ACTUS」にメイプルカレッジ「絵本深読み講座」紹介を主旨とする電話出演。		
2023年	3月	アンズハウス(西白井)で「文学と音楽の夕べ」にピアノ演奏などで出演。		

社会 貢献 活動	<p>これまでに、ソニーから発売されたクラシック音楽CDでのライナーノートや、R・シュトラウス協会年誌でのドイツのオペラ上演評を翻訳している。児童文学の評論、小規模雑誌への寄稿、演奏会プログラム掲載解説などの執筆も多数。また、山梨英和大学ハンドベル部、吹奏楽部の顧問・指揮として、大学内外での社会活動(演奏・編曲)を行っているほか、山梨英和大学のチャペルアワーでのピアノ伴奏などの音楽演奏、燭火礼拝で用いる楽曲編曲にも携わっている。</p>
----------------	--

成果と目標

専門的 成果	<p>① ツェムリンスキーのオペラ《夢見るゲルゲ》をテーマとする博士論文。知られざる音楽作品の価値、ファンタジーの要素をもったオペラ、社会において無力な芸術家の取るべき態度は何か、といった自分の関心および問題意識をひとつの論として結びつけている点で、「自分の考えていることを明確に伝える」努力が、最大限実現されたものと考えている。</p> <p>② 雑誌掲載論文「音楽を描く児童文学、その諸相」および日本児童文学学会で賞を得た論文「前衛音楽としての「カナリア・オペラ」と英国社会」。「音楽をテーマとする作品」という新たな視点からの児童文学論を提供すると同時に、このテーマを通して児童文学作家たちの社会や世界に対する見方に問題提起を行ったものとして、高い評価を得た。この成果は山梨英和大学での授業にも反映されている。</p> <p>③ 上記の実績にはないが、オペラ《おおきなかぶをぬいたら》の台本。メールヒエンや児童文学などの要素をさまざまに組み合わせて、面白く上演・鑑賞でき、かつ社会批判的な視点も分かりやすく伝える(ことを意図した)作品である。</p>
専門的 目標	<p>① 博士論文の書籍化。また、卒業論文以来長く研究してきた、子どもを描くオペラの歴史についての議論も、書籍としてまとめたいと考えている。</p> <p>② 研究成果をもとにした、娯楽と知的好奇心の両方を満たし、何らかの問題提起性も含む文化行事(たとえば音楽会)の企画を行い、定着・発展させ、この種の催しが東京圏以外でも頻繁に行われるきっかけを作る(2015年度より開始:「社会貢献活動」の項目を参照のこと)。あわせて、山梨英和大学内の複数の音楽サークルの活動にかかわるようになったことを契機に、指揮や編曲、演奏曲目や演奏実施についてのアドバイスなどを行い、各サークルの活動形態や演奏曲目に多様性を持たせ、学内での文化活動の活性化に貢献したいと考えている。</p> <p>③ 児童文学作品をテーマとした音楽作品を作曲すること(書けばいいというものではないので、その作品がある程度流通するための工夫もしたい)。</p>

作成基準日	2023年3月31日
-------	------------